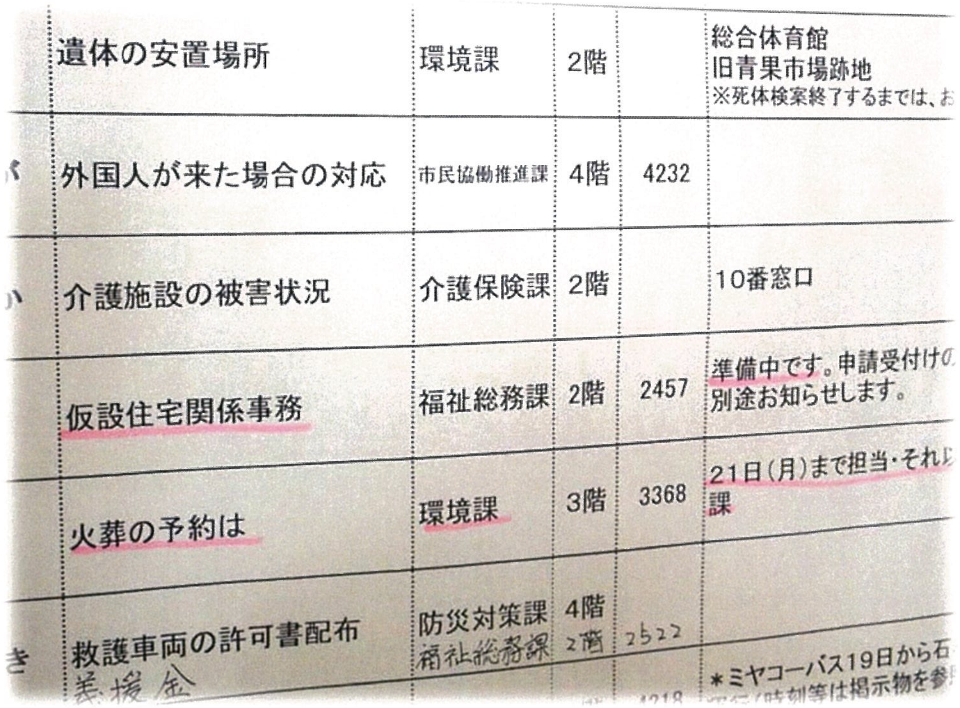

遺体の安置場所	環境課	2階		総合体育館 旧青果市場跡地 ※死体検案終了するまでは、お
外国人が来た場合の対応	市民協働推進課	4階	4232	
介護施設の被害状況	介護保険課	2階		10番窓口
仮設住宅関係事務	福祉総務課	2階	2457	準備中です。申請受付けの 別途お知らせします。
火葬の予約は	環境課	3階	3368	21日(月)まで担当・それ以 課
救護車両の許可書配布 義援金	防災対策課 福祉総務課	4階 2階	2522	
				＊ミヤコーバス19日から石 時刻等は掲示物を参

<2011. 3. 20 @石巻市役所>

ARCHIVE 3.11

東日本大震災　宮城県国際化協会　20 か月の軌跡

CONTENTS

第一章　Photo Archive

・3.11　14:46　その日、そのとき ……………………………… 1
・事務所復旧作業 ……………………………… 2
・情報整理と多言語相談体制を整える ……………………………… 3
・国際 NGO、メディア対応 ……………………………… 4
・緊急支援車両手配 ……………………………… 5
・津波被災地で私たちが実際に目にした光景 ……………………………… 6
・被災地巡回 16 日間走行距離 2,600Km の記録(19 市町) ……………………………… 8
・外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会と総括専門家会議 ……………… １０
・市町村日本語教室及び行政窓口巡回 ……………………………… １２
・外国人母親対象子どもの心のケア研修会 ……………………………… １３
・外国人県民によるインバウンド復活支援プログラム ……………………………… １３
・米軍が管理する避難所の仮設入浴施設へ災害時通訳ボランティアを派遣 ……… １４
・続トモダチ作戦～米国お見舞いメッセージ翻訳活動 ……………………………… １４
・津波被災地日本語教室立ち上げ支援 ……………………………… １５
・津波被災地域と隣接地域の外国人住民を繋ぐシンポジウム ……………………… １６
・外国人による津波被災地の子どもたち応援プログラム ……………………………… １６
・日米トモダチコンサート ……………………………… １７
・仮設住宅での子育てを支援するための国際協力セミナー ……………………………… １７
・七ヶ浜町仮設住宅入居者等を対象とした世界の料理教室 ……………………………… １８
・兵庫県国際交流員・留学生等被災地視察研修団受け入れ ……………………………… １９
・故テイラー・アンダーソンさんご遺族寄贈文庫翻訳活動 ……………………………… ２０
・3.11 の経験に基づいた定住外国人のための防災について学ぶ会 ……………… ２１
・大災害に備えた国別ネットワーク立ち上げ支援 ……………………………… ２１
・岩手・宮城・福島三県地域国際化協会からの報告シンポジウムと被災地視察 …… ２２
・米国 9.11 ドキュメンタリーフィルム“Rebirth”上映会 ……………………………… ２３
・日本語学習支援ネットワーク会議 ……………………………… ２３
・物資支援や義援金 ……………………………… ２４

STAGE Ⅳ　定住外国人の拠り所　地域日本語教室の早期復旧支援

■被災地域の日本語教室は外国人の安否確認と生活復興支援に大きな役割を果たし、「セーフティネット」として機能していたことが明確となった。しかし、多くの教室は被災し、再開の目途すら立たない状況にあり、学習者離れが懸念されていた。一日も早い再開に向けどのような支援が必要とされているのかニーズ調査のため、改めて被災地を巡回し、行政担当者、日本語教室主宰者、在住外国人が一堂に会するヒアリングを行った（★P52）

■震災による津波で被害を受けた日本語教室に活動再開支援のための補助金を支給（★P52）

■津波被災地である南三陸町において日本語ボランティアの養成講座を実施し、教室の立ち上げを支援（★P53）

STAGE Ⅴ　世界からの支援を被災地に届けるための語学ボランティアのコーディネート

■被災地が想像を超える壮絶な状況だったために、発災直後は派遣することができなかった災害時通訳ボランティア。米国小中学生らから届いたお見舞いメッセージの翻訳活動（「続トモダチ作戦」）、津波の犠牲となった ALT テイラー・アンダーソンさんのご遺族から寄贈された絵本の翻訳活動などをコーディネートした（★P54, P55）

■避難所に米軍が設営した簡易入浴施設の運用に関する通訳のコーディネート（★P56）

■海外メディア、NGO 等の被災地取材、支援に随行する通訳のコーディネート

■農業再興のために導入した外国製機器の取扱説明書の翻訳コーディネート

STAGE Ⅵ　定住外国人等による被災地支援活動のコーディネート

■風評被害で落ち込むインバウンド復活のため民間企業と協力し、定住外国人による観光地体験ツアーを行い、SNS を活用した情報発信

■留学生や ALT などによる被災地ボランティア活動や被災者との交流活動

■七ヶ浜町内の仮設住宅入居者を対象とした世界の料理講座（★P57）

■日米トモダチコンサート

■米国 9.11 ドキュメンタリーフィルム “Rebirth” 上映会

STAGE Ⅶ　定住外国人の自助力向上支援

■災害時の安否確認や情報共有、相互支援を目的とした国別ネットワーク構築の支援（★P58）

■3.11 の経験と反省に基づいた外国人向け防災研修の実施（★P59）

STAGE Ⅷ　私たちの経験を全国に発信、課題の共有

■岩手・宮城・福島三県地域国際化協会による支援活動中間報告会の実施（★P60）

■岩手・宮城・福島三県地域国際化協会による合同シンポジウム＆被災地視察を実施（★P62）

■セーフティネットとしての地域日本語教室の役割や連携のあり方を考察するための東北管内日本語学習支援ネットワーク会議の実施（★P65）

■各方面への出講、シンポジウム登壇、寄稿（★P66）

被災直後から被災地巡回を始めるまでの動き

3.11(金)	・3 月 9 日にも緊急地震速報が発令されるほどの地震を経験していたことから、各自速やかに安全確保。 ・相談室にいたブラジル人母子、「外国籍子どもサポーター研修会」参加者 35 名を荷物持参で 1 階駐車場に一旦退避させ、その後道路の混雑も勘案し帰宅を促す。研修会参加者の中には、南三陸、本吉、石巻方面からの中国人女性 5 名がいたが、停電で出庫できなくなった駐車場から人力で車を無理やり出庫させ、高速道路は不通だろうと予測し、内陸の道を辿って帰宅。 ・職員は様子を見てから 7 階に戻るが、余震も強く、暗くなってからでは各自宅もガラスが散乱しているなど危険なことが予想されたため明るいうちに解散、帰宅。 ・事務局次長、ロッカー付近のガラス等の後片付けなどをして事務所泊。
3.12(土)	・次長、事務局及び海外研修員会館チェック後、県庁主管課へ。 ・入れ替わるように企画事業課長、事務局へ。 ・相談センター専用電話にブラジル総領事館Ｙ氏からブラジル人相談員の安否確認電話。その後、再びすべての電話が不通。 ・1 階「ねんりんピック推進室」で無線電話を使い県庁主管課に連絡を取る。県庁が通電していること、情報が集まっていることから事務局を施錠し徒歩で県庁へ移動。ドアに『片づけは電気復旧後に』との貼り紙を残す。その後、嘱託員 3 名が登庁したが、貼り紙を見て帰宅。 ・県庁で協会携帯の充電をさせていただきながらテレビニュース、新聞でその被害の甚大さを知る。 ・次長は県職員車で一旦帰宅。企画事業課主任主査と県庁で合流。 ・県庁が災害ボランティアの ML を使って安否確認したいとのことで、協会事務所へ戻り、災害時通訳ボランティアおよび保健・医療通訳サポーター名簿を持ち出し県庁へ届ける。 ・合同庁舎は、電気×、水〇、ガス×。**福島第一原発一号機水素爆発。**
3.13(日)	・事務所ドアにＹ医師からのボランティア志願メッセージが貼付されていた。ありがたい。 ・専務、次長、企画事業課長、主任主査で事務局の片付け作業。 ・仙台空港到着後に地震に遭い、目的地の大船渡に行けず困っていた中国人男性を名取市民の男性が当協会まで送り届けてくださる。国際電話を経由し、大船渡の知人に連絡を取ると仙台にいることがわかり迎えに来てもらう。その間、施設内の現状復帰に力を貸してもらう。 ・ようやく通電するもインターネット不安定。

「外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会」で参加者が語ったこと

※各コメントの最後は（話者の居住市区町村・出身国）を表します。

●地震前・地震発生直後

・地震の時は畑に逃げるようにと以前から夫に言われていました。(登米市・韓国)

・避難勧告をもっと強力にやっていたらと悔しく思っています。みんないつもと同じと思って避難せず、そのせいで私の近所の方もたくさん亡くなりました。(仙台市若林区・フィリピン)

●恐怖

・地震後、職場の上司に家に帰るように言われました。ですが、車が途中から大渋滞となり、なぜだろうと思っていたら、１０メートルほど後ろを走っていた車が津波にのみ込まれていました。その何秒後かに自分が乗っていた車も水の上に浮かび上がり、くるくる回転し始めました。がんばって車から抜け出し、瓦礫の上に登っていた人の手につかまって、何とか助かりました。(気仙沼市・フィリピン)

・地震後の夜の市街地の火事と余震のたびに起こる地鳴りが怖かったです。(気仙沼市・韓国)

・最も恐ろしかったことは情報が全くなかったということ、このような精神的な恐怖感はほんとうに怖かったです。(気仙沼市・中国)

・地震の経験がなかったので、食料、日用品などの用意がなく、慌てました。(登米市・中国)

・多くの人が溺れているのを見ました。浮輪があったら救助ができたのに・・・映画を見ているようなあまりにも衝撃的でした。それをただただ見ていることしかできず、情けなく思いました。(名取市・韓国)

●安堵

・福島に仕事で行っていた夫が 4 日後に帰ってきました。地獄から生き返ったような気持でした。(気仙沼市・韓国)

・1 週間家族に会えませんでした。ひとりぼっちになったと思いました。子どもたちに会えた時は本当にうれしかったです。(女川町・ペルー)

・電気・水道が戻ったときはとてもうれしかったです。(登米市・韓国)

・友だちや日本語講座の先生たちと話したいとずっと思っていましたので、「ふりかえる会」で会えてとてもうれしいです。(石巻市・フィリピン)

●不便・ストレス

・情報もなかなか入りにくく、ほとんど友達から聞いた情報に頼っていました。ラジオも聞いていましたが、難しい話はよく分かりませんでした。(気仙沼市・フィリピン)

・E-mail、インターネット、電話、連絡手段がすべて失われましたし、お店が開いてなかったり、買い物時間や買える品数に制限があったりして不便でした。(気仙沼市・アメリカ)

・食べ物を買うために長い行列に並びましたが、一緒に並んでいたお年寄りが気の毒でした。（登米市・韓国)

・電気がないことが不便でした。1 歳の子どもが暗いところに慣れていないので、なかなか寝てくれず、毎日たいへんでした。(登米市・イギリス)

・酪農を営んでいて 200 頭ほど牛を飼っています。断水のために牛に飲ませる水がなくなり 5 日間も用水路から水を汲んできて飲ませました。それがいちばん大変でした。(川崎町・韓国)

・電話で通じなくて、コミュニケーションの手段を失って、永遠に隔絶されるような感じがしました。震災を目撃してからというもの将来への不安からあまり眠れなくなってしまいました。（石巻市・タイ)

・被災してから避難所を 2 か所回って、現在借家で家族と暮らしています。被災当時を思い出すのもつらいです。乏しい情報の中、子どもと自分が生き延びるので精一杯でした。災害弱者というのは、まさしく私たちのことです。子どもが体調を崩しても満足に診療を受けることができませんでした。学校はどうなるかとても心配でした。(東松島市・台湾)

●喪失

・早く以前のようなきれいで美しい気仙沼に戻ることを祈っています。(気仙沼市・チリ)

・この世が終わると思いました。津波が終わってから気仙沼に行ってみたら、テレビで見る以上に悲惨でした。家もなくなっていました。自分の家族は無事でしたが、ほかの人の家族のことを思うと悲しかったです。(気仙沼市・フィリピン)

・持っているものすべてを失ったことは悲しいです。生きてはいますが、津波で犠牲になった知り合いのことを考えると悲しくなります。町は 90%が止まっている状態だし、多くの方々が仕事を失っていて、生活がどう立て直せるのかが全く見えません。(南三陸町・フィリピン)

・知人に会っても「大丈夫ですか？」と聞くのが怖いところに住んでいます。自宅は大川小学校から車で 20 分ほどのところにあります。近所の方々とは「生き残ったね！」と声を掛け合っています。(石巻市・韓国)

●不安

・被災して仕事を失い、東京の大学に通う娘の学費や仕送りが苦しいです。授業料が免除されるかどうかも分からないので・・・(気仙沼市・中国)

・仕事もなくなり、どうしていいか途方に暮れています。夜なかなか眠れず、つい先日まで友だちが津波に流される夢を見ていました。(気仙沼市・韓国)

●母国

・韓国から「帰ってきなさい」という電話が頻繁に来ましたが、日本での生活が長く地震の経験もありましたので大丈夫と答えました。ただ原発の事故は怖かったです。今は状況が分かってきているので心配していません。(登米市・韓国)

・原発事故による放射能問題で、中国の親族から「早く子供を連れて中国に帰ってきて」という電話がたくさんありました。ですが、今回いちばん辛い思いをしているのは逃げ場がない被災地の日本人だと思いました。もうこれ以上、夫や夫の両親を悲しませたくないと思い、中国の親族を説得して日本に残りました。(登米市・中国)

●日本・日本人

・周りの人たちのことを考えてお互い手伝っていて感心しました。あんなに辛い経験をしたのに、声を出して泣く姿を見かけなかった。すぐ気持ちを切り替えて動き出しているように見えましたが、もっと悲しみをストレートに表現してもいいのでは・・・(気仙沼市・韓国)

・地震直後、近所の人々がすぐにお年寄りと子供を集会所に集めました。食べ物を持ち寄って、一緒に料理をして食べました。日本人の助け合いの精神や温かさを実感しました。日本での生活がもっと好きになりました。(登米市・中国)

・コインパーキングに停めていた車が停電で出せなくなりました。仕方がないので一緒にいた中国人 5 人で力を合わせて車を出しました。すると、それを見ていた日本人から助けてほしいと頼まれ、結局 5 台を駐車場から出しました。これは日本人にはできない発想だったのかと思います。(石巻市・中国)

●家族

・いつも遊びに出かけてしまう夫が被災後は 24 時間一緒にいてくれたので、新婚のようでした。(川崎町・韓国)

・今回の地震で主人のありがたさと頼もしさを感じました。いつもは間違えて買ってきた物も恥ずかしくて交換に行けないような人でしたが、家族のために公民館に並んで配給のおにぎりをもらってきたり、自転車で遠いところまで行って水を汲んできてくれたり・・・(大河原町・韓国)

２０１２年度　みやぎ外国籍県民大学フォローアップ事業

ネットワーク力向上ための
緊急研修会

みやぎ外国籍県民大学で出会ったみなさんは、東日本大震災後、海外出身者によるネットワークの重要さを感じたことと思います。この緊急研修会では、より強いネットワークづくりのための意見交換をおこないます。

■日　時　2012年4月22日（Sun.）
　　　　　1：00p.m. ～ 3：00p.m.
■会　場　ＡＥＲ　２８Ｆ大研修室

●内　容

1）新入学生紹介

2）近況報告

3）大震災後の「国別ネットワーキングの動き」について
- フィリピンネットワークと支援の輪
- 中国ネットワークの進み具合
- そのほかの国の状況

4）今後の研修会の予定
- 『法律勉強会　離婚ケーススタディ』
  5月22日（Tue.）2:00～4:00　　仙台弁護士会館
- 『新しい入管法について』
  6月か7月

5）その他

MIA ニューカマーのための生活適応支援プログラム

防災について学ぶ会

この標識の意味を知っていますか？

震災後の今、宮城県では「防災」がとても大事です！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日時：２０１２年5月１５日（火）
　　１２時～１４時半
　　１２時～１３時：昼食　１３時～１４時半：学ぶ会
会場：宮城県国際化協会（MIA）研修室
内容：宮城県で安全に暮らせるように、地震や津波などの災害への備えと対処法を一緒に学びます。
参加費：無料（参加者にはMIAで昼食を用意します）
申込み：5月8日（火）までに申し込んでください
　　（電話、FAX、E-mailでもOKです）

※各国語の通訳がつきます。　※お友達や家族をさそってもいいです。

主催：宮城県国際化協会（MIA）　協力：SONAE仙台防災学習研究所

お申込み・お問い合わせ
宮城県国際化協会（MIA）　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17　宮城県仙台合同庁舎7階
TEL:022(275)3796　FAX:022(272)5063　E-mail:mail@mia-miyagi.jp